

厚生労働科学研究費補助金(循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業)
公衆衛生領域を中心とした自治体栄養士養成プログラム開発のための研究
分担研究報告書

目指す職位により市町村に勤務する管理栄養士・栄養士としてのスキル
アップに関することや 10 年後に目指すべき姿は異なっているのか

研究分担者 青森県立保健大学健康科学部栄養学科 小山 達也

研究代表者 大阪市立大学大学院生活学研究科食・健康科学講座 由田 克士

研究分担者 愛知県瀬戸保健所 澁谷 いづみ

研究分担者 神奈川県立保健福祉大学栄養学科 田中 和美

研究分担者 千葉県立保健医療大学健康科学部栄養学科 荒井 裕介

研究分担者 静岡県立大学食品栄養科学部栄養生命科学科 串田 修

研究協力者 新潟県新潟地域振興局健康福祉部 磯部 澄枝

研究協力者 兵庫県健康福祉部健康局 諸岡 歩

研究協力者 神奈川県立保健福祉大学栄養学科 飯田 綾香

研究要旨

市町村及び都道府県、保健所設置市・特別区に勤務する栄養士を対象とした調査から、目指す職位(係員、監督職、管理職)とスキルアップや 10 年後に目指すべき姿との関連を検討した。調査時期は 2021 年 1 月から 3 月にウェブによるオンライン調査を実施した。市町村、都道府県・保健所設置市・特別区に勤務する管理栄養士・栄養士として、10 年後に目指すべきこと、スキルアップに関すること(以下、目指す姿)について、自由記述で回答を求めた。市町村に勤務する栄養士で目指す職位が係員、監督職、管理職である者の目指す姿として、それぞれ 4 カテゴリー、5 カテゴリー、6 カテゴリーが得られた。都道府県に勤務する栄養士で目指す職位が係員、監督職、管理職である者の目指す姿として、それぞれ 5 カテゴリー、6 カテゴリー、4 カテゴリーが得られた。保健所設置市・特別区に勤務する栄養士で目指す職位が係員、監督職、管理職である者の目指す姿として、いずれも 4 カテゴリーが得られた。市町村に勤務する管理栄養士・栄養士のスキルアップに関することや 10 年後に目指すべきことは、目指す職位によって異なっていた。

緒言

市町村及び都道府県、保健所設置市・特別区に勤務する栄養士の主な専門的業務は組織体制の整備、健康・栄養課題の明確

化と PDCA サイクルに基づく施策・推進、生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底のための施策の推進、自立化に向けた機能の維持・向上のための施策の推進、社会環

境の整備の促進と多岐にわたっている¹⁾。地方自治体等では自治体栄養士の資質の向上のため取り組みがなされている²⁻⁷⁾。

自治体栄養士を取り巻く状況を考慮しつつ、人材育成プログラムを開発するにあたっては、実際に自治体に勤務する管理栄養士・栄養士のニーズが大切になってくるが、これまでそのニーズ調査は必ずしも行われていない。そこで、市町村及び都道府県、保健所設置市・特別区に勤務する栄養士を対象とした調査から、目指す職位(係員、監督職、管理職)とスキルアップや10年後に目指すべき姿との関連を検討した。

方法

1. 調査方法

調査対象は、市町村、都道府県、保健所設置市・特別区に勤務する行政栄養士であり、現在、地域の健康づくりに関わる業務を専従もしくは兼務で担当しており、次の①と②の両方を満たす者とした。①厚生労働省の調査において、行政栄養士として回答している場合、②雇用形態が常勤または常勤的非常勤(週4日以上で1日6時間以上の勤務)である場合。ただし、現時点で、福祉・保育・高齢者・教育委員会・医療などの分野を専従で担当されている者は対象外とした。

調査時期は2021年1月29日～2021年3月2日にウェブによるオンライン調査を実施した(株式会社サーベイリサーチセンター)。アンケートフォームの冒頭に協力依頼文を示した。依頼文には、調査目的、無記名方式であること、調査への協力は任意であり回答をもって同意とみなすこと、回答がなくても不利益は生じないことを明記した。また、回答の返送に際して、個人を特定できる

情報等が研究班側に伝わる可能性があることから、調査票の回答に関わる画面作成とあらゆる返信の受信については委託会社に依頼し、研究側は委託会社により得られた単純に入力されたデータベースのみを受け取り、個人を特定できる可能性のあるメールアドレス等の情報は一切受領しないこと、委託会社に対しては、回答者の個人を特定できる情報等について、調査終了後すべて破棄すること、他の目的での二次利用を禁止すること等、情報の取扱について明記した。

調査の実施にあたり、公益社団法人日本栄養士会公衆衛生事業部を通じて、周知と協力の依頼を行った。

2. 調査内容

1) 基本属性

性別、年齢、主な業務内容ごとの勤続年数、現在の職位を尋ねた。なお、市町村に勤務する栄養士には主な業務内容として、地域の健康づくり、高齢者福祉、児童福祉、教育委員会、その他の勤務歴別に尋ねた。都道府県、保健所設置市・特別区に勤務する栄養士には、主な業務内容として、衛生主管部局(本庁)で地域の健康づくりや栄養・食生活の改善の推進、保健所・保健センターで地域の健康づくりや栄養・食生活の改善の推進、食品衛生関連部局(本庁、保健所ともに主担当が食品衛生関係)、高齢者関連部局、教育委員会、その他の勤務歴別に尋ねた。

目指す職位は、「このまま現在の自治体に勤務し続けると仮定した場合、あなたは最終的にどのくらいの職位(本庁での職位として勘案)を目指したいと希望しますか」と尋ね、係員、監督職(係長、本庁係長、保健所課長に準ずる)、管理職(課長補佐、主幹以上)

から回答を求めた。

2) 市町村、都道府県・保健所設置市・特別区に勤務する管理栄養士・栄養士として、10 年後に目指すべきこと、スキルアップに関する自由記載

3. 分析内容

記述統計については、統計ソフト IBM SPSS Statistics version 26 を使用した。欠損値は設問ごとに除外した。目指す職位 3 群間の比較には、カイ二乗検定を用い、有意水準 5% とした。自由回答の分析については、信頼性・再現性の観点からアンケートの自由記載分析に適した、計量テキスト分析ソフトの KH Corder Ver.3 を用いた⁸⁾。基本的にデータクレンジング後の語の共起性を中心に主題を抽出しカテゴリー化した(主に共起ネットワーク分析)。

4. 倫理的配慮

本調査は大阪市立大学生生活科学部・生活科学研究科倫理委員会の承認を受けた。

結果・考察

市町村に勤務する栄養士 1031 人、都道府県に勤務する栄養士 451 人、保健所設置市・特別区勤務する栄養士 323 人から回答を得た。

1. 基本属性

市町村に勤務する栄養士の基本属性を表 1 に示す。年齢が高いほど、目指す職位が高かった。地域の健康づくりの勤務歴が長いほど目指す職位が高かったが、他の業務内容の勤務歴とは関連がなかった。現在の職位が高いほど、目指す職位も高かった。

都道府県に勤務する栄養士の基本属性を表 2 に示す。衛生主管部局(本庁)で地域の健康づくりや栄養・食生活の改善の推進の

勤務歴が長いほど目指す職位が高かったが、他の業務内容の勤務歴とは関連がなかった。現在の職位が高いほど、目指す職位も高かった。

保健所設置市・特別区に勤務する栄養士の基本属性を表 3 に示す。目指す職位と勤務歴に関連はなかったが、現在の職位が高いほど、目指す職位も高かった。

2. 10 年後に目指すべきこと、スキルアップに関すること

市町村に勤務する栄養士として、10 年後に目指すべきこと、スキルアップに関することは、表 4 のようにカテゴリー化された。目指す職位が管理職である栄養士は同じ職種である管理栄養士・栄養士との連携についての言及は必ずしもなかったが、他の職種との連携は目指す職位によらず記述されることが多かった。さらに目指す職位が管理職である栄養士は、栄養士の存在・役割について他職種からの理解されることを言及していた。また、目指す職位が係員と監督職である栄養士では住民支援がスキルアップに関することとして記述されることが多く、目指す職位が管理職である栄養士は住民に頼られる存在が 10 年後に目指すべき姿として記述された。都道府県に勤務する自治体栄養士よりも市町村に勤務する自治体栄養士の方が、対人業務が多いことが反映された結果となった。目指す職位によらず事業の実施、評価に関することがスキルアップで記述されることが多かったが、目指す職位が管理職である栄養士は予算や施策の立案から記述され、現在だけでなく将来を見据えた取組みについても言及していた。目指す職位が係員や監督職である栄養士は、研修に参加す

ることでスキルアップを目指したいと書いていた者が多かった。また、目指す職位が監督職である栄養士は、多様な経験もしたいと記述するものも多かった。

都道府県に勤務する栄養士として、10年後に目指すべきこと、スキルアップに関することは、表5のようにカテゴリー化された。目指す職位が係員である栄養士は、スキルアップに関することとして住民支援が記述されたが、目指す職位が監督職や管理職である栄養士ではあまり見られなかった。目指す職位が係員や監督職である栄養士は、他の職種との連携だけでなく管轄する市町村の自治体栄養士や他分野に勤務する栄養士との連携の記述がみられた。目指す職位が係員である栄養士は、専門性を発揮することや時代のニーズに応じた対応することを目指す姿として記述していた。目指す職位が係員である栄養士の人材育成は自身のことが記述されることが多かったが、目指す職位が監督職である栄養士は後輩の育成となり、目指す職位が管理職である栄養士は、より広く栄養士一般の活躍について記述されていた。目指す職位が監督職や管理職である栄養士は、成果の見える化など事業を評価するスキルを向上させることで、周囲へのアピールになり、栄養士の存在・役割が組織全体へ理解されるようになりたいと記述していた。また、目指す職位が監督職である栄養士は、保健所以外の経験もしたいと記述する者も多かった。

保健所設置市・特別区に勤務する栄養士として、10年後に目指すべきこと、スキルアップに関することは、表6のようにカテゴリー化された。目指す職位が係員や監督職である栄養士は、成果が見える化、事業を評価す

るスキルを向上させることで周囲から理解されたいと記述していた。また、多職種と連携していくためにも、専門以外の知識を獲得していきたいとしていた。目指す職位が監督職や管理職である栄養士は、多様な部署での勤務を経験したいと記述するものも多かった。

勤務する自治体や目指す職位によらず、10年後に目指すべきこと、スキルアップに関することとして、連携業務があった。医療分野ではチーム医療など多職種連携が強調されることが多いが、自治体に勤務する栄養士の業務においても多職種連携できるスキルが大切であることが窺えた。記述のあった連携先としては、保健師などの他の専門職だけでなく、事務職や食生活改善推進員、地域の住民組織、そして同業種の管理栄養士・栄養士があった。連携する・したい同業種の管理栄養士・栄養士は、勤務する自治体により異なり、市町村に勤務する栄養士では他の施設の栄養士、都道府県に勤務する栄養士では管轄する市町村の栄養士、保健所設置市・特別区に勤務する栄養士では他の課の栄養士が挙げられる傾向にあった。医療や福祉分野と同様、自治体に勤務する栄養士も多職種連携が大切であるが、医療や福祉分野は専門職種との連携が中心であるが、自治体に勤務する栄養士は専門分野だけでなく、地域住民や同業種の管理栄養士・栄養士との連携が大切になるため、多職種連携のために求められるスキルは異なっているのかもしれない。

勤務する自治体によらず、目指す職位が監督職である栄養士は、10年後に目指す姿、スキルアップに関することとして多様な経験を記述する者が多かった。多様な経験の具

体的な内容は、勤務する自治体に異なり、市町村に勤務する栄養士は、母子保健から高齢者福祉までの全ライフステージの経験、都道府県に勤務する栄養士は保健所だけでなく本庁での経験、保健所設置市・特別区に勤務する栄養士は衛生部局以外の部局での勤務が書かれていた。目指す職位が監督職である者は、スペシャリストよりもゼネラリストを志向する者が多い傾向にあることが示唆された。

勤務する自治体、目指す職位によらず、10年後に目指す目指すべきこと、スキルアップに関することとして事業評価が挙げられた。事業評価を適切にすることで、成果の見える化を行い、周囲から栄養士の存在・役割を示したいということが記述されることが多かった。周囲へのアピールは、目指す職位が高くなるほど、よく記述される傾向にあった。人材育成プログラムを開発するにあたっては、事業の実施方法のプログラムだけでなく、事業の評価評価方法のプログラムについても検討する必要があると考えられた。

目指す職位が高くなるにつれ、10年後に目指すこと、スキルアップに関することとして自身のことだけでなく、後輩の育成や栄養士一般の期待に記述される傾向にあった。保健師は中堅保健師がプリセプターとなり、新人保健師を育成することが多い。しかし自治体栄養士は、1人などの少数配置であることが多いため、保健師と同様の方法で後輩は育成することは難しいと予想される。今後は、自治体の栄養士が職場でどのように後輩を育成しておくことが望ましいのか、検討する必要がある。

結論

市町村に勤務する管理栄養士・栄養士のスキルアップに関することや10年後に目指すべきことは、目指す職位によって異なっていた。そのため、自治体に勤務する管理栄養士・栄養士のための人材育成プログラムは、目指す職位に応じて開発することが望ましいことが示唆された。

文献

- 1) 厚生労働省:地域における行政栄養士による健康づくり及び栄養・食生活の改善の基本指針について
<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000637215.pdf>
- 2) 岡山県:行政栄養士育成支援プログラム
https://www.pref.okayama.jp/uploaded/like/380765_2143892_misc.pdf
- 3) 島根県:新任期の行政栄養士支援プログラム
<https://www.pref.shimane.lg.jp/medical/kenko/kenko/hokenshi/tiikihoken.data/eiyousi.pdf>
- 4) 高知県:行政栄養士人材育成ガイドライン
https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/131601/files/2019110500025/file_2019115294327_1.pdf
- 5) 長崎県:行政栄養士育成プログラム
<https://www.pref.nagasaki.jp/shared/uploads/2013/02/1446086337.pdf>
- 6) 熊本県:行政栄養士育成指針
<https://www.pref.kumamoto.jp/uploaded/attachment/49586.pdf>
- 7) 北九州市:栄養士の人材育成方針
<https://www.city.kitakyushu.lg.jp/files/0>

00835520.pdf

- 8) 樋口耕一. 社会調査のための計量テキスト分析ー内容分析の継承と発展を指してー.

第 2 版. 京都:ナカニシヤ出版. 2020

表 1 基本属性(保健所設置市を除く市町村に勤務する栄養士)

		目指す職位						p	
		係員 (n=521)		監督職 (n=328)		管理職 (n=182)			
		n	%	n	%	n	%		
年齢	20 歳代	124	(23.8)	88	(26.8)	37	(20.3)	0.049	
	30 歳代	178	(34.2)	83	(25.3)	51	(28.0)		
	40 歳代	144	(27.6)	111	(33.8)	60	(33.0)		
	50 歳代以上	75	(14.4)	46	(14.0)	34	(18.7)		
性別	女性	515	(98.8)	321	(97.9)	168	(92.3)	<0.001	
	男性	6	(1.2)	7	(2.1)	14	(7.7)		
勤務歴	地域の健康 づくり(母子保 健、成人保健 (特定健診・ 特定保健指 導)を含む)	勤務経験なし	6	(1.3)	4	(1.4)	1	(0.6)	<0.001
	3 年未満	165	(35.9)	75	(26.0)	41	(24.6)		
	3 年以上 5 年未満	69	(15.0)	44	(15.3)	20	(12.0)		
	5 年以上 10 年未満	103	(22.4)	55	(19.1)	31	(18.6)		
	10 年以上 20 年未満	80	(17.4)	60	(20.8)	43	(25.7)		
	20 年以上 30 年未満	31	(6.8)	48	(16.7)	28	(16.8)		
	30 年以上	5	(1.1)	2	(0.7)	3	(1.8)		
高齢者福祉 (介護予防 等)	勤務経験なし	292	(72.6)	189	(74.1)	108	(76.1)	0.235	
	3 年未満	60	(14.9)	23	(9.0)	15	(10.6)		
	3 年以上 5 年未満	19	(4.7)	13	(5.1)	7	(4.9)		
	5 年以上 10 年未満	18	(4.5)	12	(4.7)	6	(4.2)		
	10 年以上 20 年未満	9	(2.2)	10	(3.9)	4	(2.8)		
	20 年以上 30 年未満	3	(0.7)	8	(3.1)	1	(0.7)		
	30 年以上	1	(0.2)	0	(0.0)	1	(0.7)		
児童福祉(保 育所等)	勤務経験なし	313	(77.9)	202	(78.6)	100	(69.4)	0.138	
	3 年未満	22	(5.5)	16	(6.2)	12	(8.3)		
	3 年以上 5 年未満	26	(6.5)	16	(6.2)	6	(4.2)		
	5 年以上 10 年未満	27	(6.7)	10	(3.9)	14	(9.7)		
	10 年以上 20 年未満	11	(2.7)	10	(3.9)	9	(6.3)		
	20 年以上 30 年未満	3	(0.7)	3	(1.2)	2	(1.4)		
	30 年以上	0	(0.0)	0	(0.0)	1	(0.7)		
教育委員会 (学校保健 等)	勤務経験なし	349	(87.9)	216	(84.0)	109	(76.2)	0.060	
	3 年未満	24	(6.0)	13	(5.1)	10	(7.0)		
	3 年以上 5 年未満	6	(1.5)	10	(3.9)	8	(5.6)		
	5 年以上 10 年未満	11	(2.8)	12	(4.7)	11	(7.7)		

	10年以上20年未満	6 (1.5)	4 (1.6)	3 (2.1)	
	20年以上30年未満	1 (0.3)	1 (0.4)	2 (1.4)	
	30年以上	0 (0.0)	1 (0.4)	0 (0.0)	
その他の勤務 歴	勤務経験なし	350 (89.7)	213 (83.5)	117 (81.8)	0.137
	3年未満	14 (3.6)	15 (5.9)	13 (9.1)	
	3年以上5年未満	7 (1.8)	9 (3.5)	3 (2.1)	
	5年以上10年未満	6 (1.5)	12 (4.7)	5 (3.5)	
	10年以上20年未満	10 (2.6)	5 (2.0)	5 (3.5)	
	20年以上30年未満	2 (0.5)	1 (0.4)	0 (0.0)	
	30年以上	1 (0.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	
業務内容を明 確に区別でき ない場合(常 に複数の業 務を担当)の 総勤務歴	勤務経験なし	152 (49.7)	96 (53.9)	49 (50.0)	0.026
	3年未満	35 (11.4)	17 (9.6)	6 (6.1)	
	3年以上5年未満	26 (8.5)	15 (8.4)	7 (7.1)	
	5年以上10年未満	27 (8.8)	14 (7.9)	8 (8.2)	
	10年以上20年未満	49 (16.0)	15 (8.4)	11 (11.2)	
	20年以上30年未満	12 (3.9)	19 (10.7)	15 (15.3)	
	30年以上	5 (1.6)	2 (1.1)	2 (2.0)	
現在の職位(本庁 での職位として勘 案)	係員	515 (98.8)	241 (73.5)	116 (63.7)	<0.001
	監督職	5 (1.0)	85 (25.9)	36 (19.8)	
	管理職	1 (0.2)	2 (0.6)	30 (16.5)	

p 値:カイ二乗検定

表2 基本属性(都道府県に勤務する栄養士)

		目指す職位							
		係員 (n=214)		監督職 (n=183)		管理職 (n=54)			
		n	%	n	%	n	%	p	
年齢	20歳代	48	(22.4)	51	(27.9)	11	(20.4)	0.462	
	30歳代	39	(18.2)	34	(18.6)	6	(11.1)		
	40歳代	57	(26.6)	48	(26.2)	15	(27.8)		
	50歳代以上	70	(32.7)	50	(27.3)	22	(40.7)		
性別	女性	205	(95.8)	175	(95.6)	49	(90.7)	0.280	
	男性	9	(4.2)	8	(4.4)	5	(9.3)		
勤務 歴	衛生主管部 勤務経験なし	135	(63.7)	89	(48.6)	22	(40.7)	<0.001	
	局(本庁)で地 3年未満	37	(17.5)	35	(19.1)	8	(14.8)		
	域の健康づく 3年以上5年未満	30	(14.2)	34	(18.6)	9	(16.7)		
	りや栄養・食 5年以上10年未満	8	(3.8)	15	(8.2)	8	(14.8)		
	生活の改善の 10年以上20年未満	1	(0.5)	7	(3.8)	7	(13.0)		
	推進 20年以上30年未満	1	(0.5)	2	(1.1)	0	(0.0)		
	30年以上	0	(0.0)	1	(0.5)	0	(0.0)		
	保健所・保健 勤務経験なし	5	(2.3)	5	(2.7)	1	(1.9)		0.680
	センターで地 3年未満	45	(21.0)	40	(21.9)	8	(14.8)		
	域の健康づく 3年以上5年未満	27	(12.6)	20	(10.9)	7	(13.0)		
りや栄養・食 5年以上10年未満	31	(14.5)	33	(18.0)	11	(20.4)			
生活の改善の 10年以上20年未満	61	(28.5)	56	(30.6)	15	(27.8)			
推進 20年以上30年未満	34	(15.9)	27	(14.8)	11	(20.4)			
30年以上	11	(5.1)	2	(1.1)	1	(1.9)			
食品衛生関 勤務経験なし	187	(88.6)	165	(90.7)	49	(90.7)	0.810		
連部局(本 3年未満	11	(5.2)	9	(4.9)	2	(3.7)			
庁、保健所と 3年以上5年未満	4	(1.9)	4	(2.2)	2	(3.7)			
もに主担当が 5年以上10年未満	6	(2.8)	4	(2.2)	1	(1.9)			
食品衛生関 10年以上20年未満	3	(1.4)	0	(0.0)	0	(0.0)			
係) 20年以上30年未満	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)			
30年以上	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)			
高齢者関連 部局	勤務経験なし	205	(97.2)	175	(96.2)	50	(92.6)	0.227	
	3年未満	2	(0.9)	3	(1.6)	3	(5.6)		
	3年以上5年未満	3	(1.4)	3	(1.6)	0	(0.0)		
	5年以上10年未満	0	(0.0)	1	(0.5)	1	(1.9)		

	10年以上20年未満	1 (0.5)	0 (0.0)	0 (0.0)	
	20年以上30年未満	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	
	30年以上	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	
教育委員会	勤務経験なし	198 (93.8)	169 (92.9)	49 (90.7)	0.478
	3年未満	4 (1.9)	2 (1.1)	2 (3.7)	
	3年以上5年未満	6 (2.8)	8 (4.4)	1 (1.9)	
	5年以上10年未満	2 (0.9)	1 (0.5)	2 (3.7)	
	10年以上20年未満	1 (0.5)	2 (1.1)	0 (0.0)	
	20年以上30年未満	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	
	30年以上	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	
その他の勤務 歴	勤務経験なし	127 (59.9)	111 (61.0)	19 (35.2)	0.012
	3年未満	20 (9.4)	14 (7.7)	7 (13.0)	
	3年以上5年未満	16 (7.5)	20 (11.0)	9 (16.7)	
	5年以上10年未満	22 (10.4)	27 (14.8)	12 (22.2)	
	10年以上20年未満	23 (10.8)	9 (4.9)	7 (13.0)	
	20年以上30年未満	4 (1.9)	1 (0.5)	0 (0.0)	
	30年以上	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	
現在の職位(本庁で の職位として勘案)	係員	213 (99.5)	152 (83.1)	31 (58.5)	<0.001
	監督職	1 (0.5)	31 (16.9)	19 (35.8)	
	管理職	0 (0.0)	0 (0.0)	3 (5.7)	

p 値:カイ二乗検定

表3 基本属性(保健所設置市・特別区に勤務する栄養士)

		目指す職位							
		係員 (n=166)		監督職 (n=135)		管理職 (n=22)			
		n	%	n	%	n	%	p	
年齢	20歳代	31	(18.7)	34	(25.2)	4	(18.2)	0.292	
	30歳代	50	(30.1)	33	(24.4)	4	(18.2)		
	40歳代	44	(26.5)	36	(26.7)	4	(18.2)		
	50歳代以上	41	(24.7)	32	(23.7)	10	(45.5)		
性別	女性	161	(97.0)	132	(97.8)	18	(81.8)	0.001	
	男性	5	(3.0)	3	(2.2)	4	(18.2)		
勤務歴	衛生主管部 局(本庁)で	勤務経験なし	102	(61.8)	72	(54.1)	10	(45.5)	0.569
	地域の健康 づくりや栄養・ 食生活の改 善の推進	3年未満	28	(17.0)	21	(15.8)	4	(18.2)	
		3年以上5年未満	12	(7.3)	16	(12.0)	3	(13.6)	
		5年以上10年未満	13	(7.9)	16	(12.0)	5	(22.7)	
		10年以上20年未満	7	(4.2)	7	(5.3)	0	(0.0)	
		20年以上30年未満	2	(1.2)	1	(0.8)	0	(0.0)	
		30年以上	1	(0.6)	0	(0.0)	0	(0.0)	
保健所・保健 センターで地 域の健康づく りや栄養・食 生活の改善 の推進	勤務経験なし	4	(2.4)	8	(5.9)	1	(4.5)	0.447	
	3年未満	45	(27.1)	31	(23.0)	5	(22.7)		
	3年以上5年未満	23	(13.9)	18	(13.3)	3	(13.6)		
	5年以上10年未満	41	(24.7)	31	(23.0)	4	(18.2)		
	10年以上20年未満	35	(21.1)	31	(23.0)	3	(13.6)		
	20年以上30年未満	12	(7.2)	15	(11.1)	5	(22.7)		
	30年以上	6	(3.6)	1	(0.7)	1	(4.5)		
食品衛生関 連部局(本 庁、保健所と もに主担当が 食品衛生関 係)	勤務経験なし	153	(92.7)	119	(89.5)	17	(81.0)	0.254	
	3年未満	5	(3.0)	8	(6.0)	2	(9.5)		
	3年以上5年未満	3	(1.8)	0	(0.0)	1	(4.8)		
	5年以上10年未満	4	(2.4)	4	(3.0)	1	(4.8)		
	10年以上20年未満	0	(0.0)	2	(1.5)	0	(0.0)		
	20年以上30年未満	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)		
	30年以上	0	(0.0)	0	(0.0)	0	(0.0)		
高齢者関連 部局	勤務経験なし	143	(86.7)	124	(93.2)	20	(95.2)	0.458	
	3年未満	12	(7.3)	6	(4.5)	0	(0.0)		
	3年以上5年未満	4	(2.4)	2	(1.5)	1	(4.8)		
	5年以上10年未満	4	(2.4)	0	(0.0)	0	(0.0)		

	10年以上20年未満	2 (1.2)	1 (0.8)	0 (0.0)	
	20年以上30年未満	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	
	30年以上	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	
教育委員会	勤務経験なし	132 (80.0)	108 (81.2)	14 (66.7)	0.667
	3年未満	7 (4.2)	8 (6.0)	2 (9.5)	
	3年以上5年未満	8 (4.8)	6 (4.5)	1 (4.8)	
	5年以上10年未満	11 (6.7)	6 (4.5)	2 (9.5)	
	10年以上20年未満	5 (3.0)	5 (3.8)	1 (4.8)	
	20年以上30年未満	2 (1.2)	0 (0.0)	1 (4.8)	
	30年以上	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	
その他の勤務 歴	勤務経験なし	109 (66.1)	80 (60.2)	11 (50.0)	0.077
	3年未満	12 (7.3)	12 (9.0)	2 (9.1)	
	3年以上5年未満	11 (6.7)	9 (6.8)	1 (4.5)	
	5年以上10年未満	19 (11.5)	14 (10.5)	5 (22.7)	
	10年以上20年未満	12 (7.3)	16 (12.0)	2 (9.1)	
	20年以上30年未満	2 (1.2)	2 (1.5)	0 (0.0)	
	30年以上	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (4.5)	
現在の職位(本庁 での職位として勘 案)	係員	166 (100.0)	89 (65.9)	11 (50.0)	<0.001
	監督職	0 (0.0)	45 (33.3)	9 (40.9)	
	管理職	0 (0.0)	1 (0.7)	2 (9.1)	

p値:カイ二乗検定

表 4 市町村に勤務する栄養士が 10 年後に目指すべきこと、スキルアップに関すること(自由記載)

目指す 職位	カテゴリー	具体的文言
係員	住民支援	住民のニーズに合った情報提供や指導ができることが大事である。
	事業の推進、成果を出すこと	10 年後には事業を企画・調整できるようにしたい。取り組んでいることの成果を出せるようにしたい。
	多職種連携	他分野の栄養士や住民組織との連携を大切にしていきたい。他職種、他課との連携をとれるようにしたい。
	研修への参加	さまざまな研修に参加してスキルアップを目指す。
監督職	研修への参加	研修に参加し、学びを深めたい。
	住民支援	栄養業務を通して住民に寄り添った管理栄養士として努力したい。
	多様な経験	一通りのライフステージに応じた対応を経験し、誰にでも対応できる管理栄養士でありたい。
	事業展開	地域の把握や特徴をおさえながら、事業や取組みを考えていきたい。
管理職	多職種連携	さまざまな機関や職種と連携しながら、市の健康課題を改善していける管理栄養士になりたいと思う。
	幅広い視点	栄養の業務だけでなく、広い視野を持ち、業務が進められるようになりたい。
	他職種連携	他職種連携をしながら健康づくりに関わっていきたい。
	予算や施策の立案・実施	予算や施策を立案し、実施スキルを身につけたい。
	将来を見据えた取組み	目の前の仕事も大切ですが、先をみることも必要だと思っている。
	住民に頼られる存在	次世代を担う子どもの食だけにとどまらず、高齢社会の中で、食の解決窓口として市民に頼られる存在でいたい。
	他職種からの理解	これからの健康課題や業務内容等必要性を理解してもらい人員増を図る。

表 5 都道府県に勤務する栄養士が 10 年後に目指すべきこと、スキルアップに関すること(自由記載)

目指す 職位	カテゴリー	具体的文言
係員	住民支援	企画・実施・評価を繰り返し、施策を住民の生活に落とし込む企画力が必要なのだと思う。
	多職種連携	地域の問題に対してしっかりと把握し、他の職種や市町とともに連携しながら解決する力を持つことが 10 年後に(できれば 10 年後までに)習得できるようになりたいと思う。
	専門性の発揮	専門職として知識を身につけるとともに、その内容をアウトプットできるようにしたい。
	時代のニーズ に応じた対応	時代の流れに合わせて、その時々臨機応変に対応できることが必要だと思う。
	人材育成	少数でも組織の中で人材育成がされ、学んでみたい、興味のある様々な研修(オンライン含む)に多くが参加できるようになれば良いと思う。
監督職	成果の見える 化	日頃の業務を評価し成果が見える形で示していく必要があると感じている。
	組織全体の理 解	組織全体の動きを理解した上で、自治体が目指す姿の実現のため、自分で企画立案し実践できるようになりたい。
	周囲へのアピ ール	個人のスキルアップとともに、栄養士の存在価値を今以上にアピールしていく必要がある。
	多職種連携	多職種と連携して、地域の健康課題を検証しながら業務に取り組むことが必要だと思う。
	保健所以外の 経験 後輩の育成	保健所以外の勤務地で経験を積みたい。 今までは自身の成長のみに注力していたが、後輩も増えてきたので、先輩を頼りにしながら後輩の育成にも携わっていききたい。
管理職	広い視野	栄養の専門職に限らず、公衆衛生従事者として、活躍し、他職種と対等に業務を遂行する。
	事業評価	県民の健康課題に対する事業の評価が充実するよう、分析などの能力を身に着けたい。
	栄養士の活躍	社会において、行政の管理栄養士や栄養士の活躍が認められ、栄養・食生活の重要性が広く認識されるとよいと思う。
	成果の見える 化	社会に認められるような、専門職種としての仕事の成果が見える化したり、同職種および他職種連携を強化していく必要がある。

表 6 保健所設置市・特別区に勤務する栄養士が 10 年後に目指すべきこと、スキルアップに関すること(自由記載)

目指す 職位	カテゴリー	具体的文言
係員	周囲からの理解	食育・栄養部門の理解を深めてもらうためにも、一定の成果を出せるような管理栄養士でありたい。
	時代のニーズに応じた対応	社会の多様化に伴い、行政等社会に対する市民ニーズは多様で複雑であるため、時代ニーズに合ったスキルを身につけていく。
	専門以外の知識	専門分野を極めて、その上で他分野の知識も高めていきたい。
	多職種連携	多職種や地域との連携するためのスキルを身に付けていく必要があると感じる。
監督職	多職種連携	他部署や外部関係各所と連携し、広い視野で業務を進められる栄養士を目指したい。
	多様な部署の経験	様々な部署で栄養士として経験を積むこと、また、栄養士業務だけではなく、多くの業務を経験することで、様々な視点から事業、業務を遂行できるようになりたい。
	知識の獲得	専門知識や行政職として必要な知識を豊富にもち、職員や市民との連携を上手く取りながら業務を行えるようになる。
	成果の見える化	行政栄養士の仕事の見える化と成果の見える仕事をしていくことが必要と思う。
管理職	他機関からの支援	国の補助金等を活用し、先進的な事業に着手することで、内外の多職種に管理栄養士業務が発信できると思う。
	専門以外の知識	どの職種よりも、食事についての知識はもちろん、さまざまなことに興味関心をもって引き出しの多い管理栄養士になりたい。
	多様な部署の経験	行政栄養士は指導していく立場であることが多いので、できればいろんな部署を経験し知った上で行政栄養士の立場に立つとよいと思う。
	後輩の育成	若手行政管理栄養士には、仕事にやりがいをもち、続けてもらえるよう支援、育成していきたい。